



・西南学院大学・

図書館報

№. 89

昭和56年(1981年)11月2日発行

〒814

福岡市西区西新6丁目2番92号

西南学院大学図書館

読書の傾向

法学部教授 川上 宏二郎

一 人の読書の傾向というのは、一生のうち、どのように変わるものだろうか。全然変わらないということは、まずありえないだろう。

ここでいう読書の傾向とは、「好む」傾向と「選ぶ」傾向の両者を意味している。「好む」傾向というのは、自分の好みを含めて任意に選んだ書物を読むことであり、「選ぶ」傾向というのは、外部から触発されたことをきっかけとして多かれ少なかれ非任意的に選んだ書物を読むことをいう。後者の場合は、「選ぶ」というよりはむしろ「選ばされる」傾向といった方が適当かもしれない。

学生諸君がよく、「読書の傾向」という欄に、歴史小説とか推理ものとか文学書とか書いているのは、多分に「好む」傾向について述べているとってよいだろう。また、手当たりしだいに読むという場合は、無意識的にか結果的に、「好む」傾向になっていることが多いだろう。

二 私のみるところでは、ごく大まかにいって、人は成長するにつれて、「好む」傾向から「選ぶ」傾向へと移っているように思われる。子供のころは、いろいろなものを好きかってに読むが、成長するにつれ、人に勧められたからとか、教養を身につけておきたいからとか、勉強に役立つ・試験に出るからとか、ともかく外からの影響をきっかけとした「選ぶ」傾向が目だつようになる。

さらに長じて職業をもつようになると、その職業に関する専門書を多く読む（あるいは読まざるをえない）ようになって、この「選ぶ」傾向がい

よいよ強くなり、ついには、専門書以外の書物はほとんど読まなくなってしまう。いわゆる専門バカに陥る可能性が生まれる。

この過程は、一面では、読書する時間的余裕がじゅうぶんにある時期から少なくなっていく時期に相応している。もっとも人によっては、この二つの傾向をりっぱに両立させている場合もあるから、上のことも、いちおうの図式でしかない。

三 私の場合、ここ数十年来、「好む」傾向は当然ながら、専門書以外のものの「選ぶ」傾向すら影を潜めている。そこで最近では、「選ぶ」傾向の再生に心がけている。すなわち、人がある小説家を激賞したからといって、その小説家のものを読み、世間の話題になったからといって、それに飛びつき、法学部出身者ないしは弁護士の書いたものだからといって、その推理・法廷小説を読んだり、といった具合にである。

ただこの「選ぶ」傾向は、任意的でないだけに、いかにもわびしく感ぜられる。かつて少年時代に、ふと手にした雑誌に載っている小説を読んで、ひどく印象づけられたことがある。このことを人に話したら、その人も同感だった。わが意をえたりと思った。その後この小説は有名な賞の対象になった。いよいよ悦に入った……。このような体験は、「選ぶ」傾向からは生まれてこないであろう。現状では、かなわぬこととは思いつつも、少しでも「好む」傾向に身を置きたいと願っているところである。

(行政法)

西南学院大学図書館の現状と将来

司書長 刀 根 淳

1. 情報化社会における大学図書館

情報化社会は、大学図書館をその好むと好まざるにかかわらず改革へと導いている。正に図書館界は時代の流れに抗することのできない転換期に立たされているといつてよい。

研究・学習上の需要、要求は多岐にわたり、その内容、数量も極めて複雑化の傾向をたどってきた。これからの個々の大学図書館は、全分野の膨大な研究資料の質、量を受けとめるだけの能力はあり得ない。あげて大学図書館間の協力、相互利用および図書館業務の機械化処理にたよらざるを得ない情勢に立たされてきた。いわば個人プレイが、団体、総合のプレイのなかにおいてこそ、はじめてその目的が達せられる図書館界の構造に変わりつつある。特に大学図書館の変貌を要求される所以がそこにある。そしてこのことは理論の段階から現実の問題としてわたしたちを否応なく追いたてている。

2. 文部省の図書館業務機械化推進について

情報化社会での学術情報システムの在りかたに、文部省は強い対策を確立した。全国大学図書館界の機械化路線による学術情報の収集と利用に強い施策を断行し、すでに一部国立大学では着実に実施に移行し、将来は公、私立大学をも包含した全国ネットワーク化の方針で、その指導を強化する傾向にある。これからの私大の図書館活動が機械化指向の強弱によって、その私大の優劣を問われるほどの機械化時代を迎えた。

3. 本学図書館の現状について

① 蔵書について

本学図書館の蔵書は、年2万冊の増加により約40万冊に達した。(神学部分館の4万冊を含む。)また他大学論集、紀要を含めた学術雑誌の種類数は約3,700に及ぶ。全学部の資料(図書・雑誌)は、その漸増計画にもとづき着実に充実、整備をはかってきた。

② 施設・設備について

昭和52年以来、教職員および学生用冷房、各階のウォータークーラー、学生用コインロッカー、教員、学生各専用複写機の新設など漸次整備をおこなったので、夏期冷房、冬期暖房の快適な図書館利用ができるまでになった。現施設での一応の整備は終えたとみて、今後は図書館機器の整備および館内スペースの有効利用が必要である。

③ 夜間開館の実施について

昭和52年10月夜間開館を断行したが、年間を通じて午後9時までの開館は、夜間学部をもたない私大では稀な実施であり、大学の研究・教育に対す

る積極姿勢を示す点で注目される点である。研究者、学生および学外者(主に卒業生と他大学生)の利用は、満4年の実績を重ねたことにより定着し、順調に経過している。

④ 国連寄託図書館について

昭和43年に国連寄託図書館を本学に設置して以来、年々その資料は増加し、同時にEC、OECD関係資料も整備している。これらの収集館は全国でも数少く、国立大では、東大、東北大、北大、名古屋大等に、私大では国連資料は、本学と日大だけ、EC資料は、本学、早稲田、慶応、中央、同志社であり、今後の収集、整備の役割りは大きい。

⑤ 本学図書館の業務機械化について

図書館業務は多岐にわたるので、現在の図書館能力の可能な範囲で、漸次機械化の方向にあり、学術雑誌の受入・管理は既に軌道に乗り、今後貸出図書(研究者)の管理および目録業務の一部推進を計画している。

⑥ 本学図書館の運営・機能について

本学図書館は全学部(神学部を除く)の研究・教育に必要な資料費予算をもち、学術研究所、国際交流、電算センター、大学院等の資料費のすべてを併せて管理しており、いわば全学資料の一元化にもとづく管理方式により運営されており、このことは大学の全資料が一貫した収集、整理にもとづき、研究、学習上最も利用しやすい管理形態をもっていることである。このため、明らかに研究機能、学習機能を同時にもち、保存機能を加えた総合機能をもつものであり、集中管理の合理性を基盤とするものといえよう。今後も、この基本姿勢のもと、研究上の弾力的運営にも意を払いつつ、全学的展望に立つての運営が望まれるところである。

4. 本学図書館の将来

情報化時代における大学図書館のあり方が今ほど問われている時はない。図書館の果すべき業務は、ますますその範囲が拡大され、その質、量ともに複雑化の傾向にある。図書館本来の発注、受入、整理、閲覧といった一連の業務に加えて、図書館利用者への参考業務の推進、充実も今後の課題といえよう。同時に、前述の夜間開館の有効利用、国連関係資料の整備、業務の機械化推進につとめるためには、その体制の強化、確立と関連業務の遂行が強く求められている。

また、60万冊収容能力をもつ本学図書館も、年々その収容余力を減じてきた。今後さらに増加するであろう研究・学習資料を収納するための新たな施設対策を検討する時期に入ったといえる。

教養部 助教授 菱谷晋介

「10才から80才まで毎週1冊ずつ読んでいっても、3640冊しか読めない」と言いながら、名作、古典といわれるものをノートを取りながら、忍耐強く丹念に読んでいた男がいた。大学時代の友人の1人である。あるいは、「学生時代に買っとかんと、卒業したら買えなくなる」と読んでもわからないような専門書をどんどん買い込み、部屋中本だらけにしていた友達もいた。彼の場合は、もっぱらツンドクであった。別の友人は、下宿の部屋にソファや、当時はめずらしかった「本物のコーヒー」が飲めるコーヒーセットを置き、ゆったりくつろいだ雰囲気の中で、少数の、主に現代日本文学を余裕をもって楽しんでいた。彼は、福永武彦が好みようだった。私はといえば、忍耐も金もなく、1つの部屋をベニヤ板で仕切ったような安下宿では、ゆったりした雰囲気などさらさら求めようもなく、安い文庫本や新書を手当たり次第に読んでいた。

本への接し方は各人各様であったが、友人達は皆、本

が好きで、本を楽しんでいた。というよりも、本のない学生生活など考えられなかった。まず、本の選択の過程を楽しみ、読む作業を楽しむ。そして、一杯のコーヒーで3時間も4時間もネバリながらする、喫茶店での議論の熱っぽさ。議論が終り、1人下宿の部屋に帰った後の空白感。我々は、このようなこと全てを包み込んだ学生生活そのものを面白がっていたし、愛していたのだと思う。学園外のこのような生活こそが、真の意味での「私の学校」だった。

この「学校」では、ほとんど生活そのものとして読書を楽しんでいた。だから、本を読むのに不適切な季節など、本質的に存在しようがなかった。いつも、「今」が読書の季節であった。このような読書態度は、現在も変わってはいない。商売柄、むしろひどくなっているかもしれない。このような私をみて家人は、「活字中毒症」と非難するが、その伝で言うならば、私にとっての読書の秋は、さしずめ「毒(?)書の秋」ということになるうか。

(心理学)



商学部3年 桧和田 新

例年のごとく今年も秋がやって来た。と同時に、それは必然的に読書の秋の到来を意味する。なぜ本を読むのに秋が最適なのか、私には合点がいかない。しかし、なにはともあれ読書の秋であることで、書に接する機会等も他の季節と比較すると増すことは確実なことであろう。

ところで現代の若者は、「本」を読まないことにかけてはかなりのものではないだろうか。かつて多くの若者は書を携えて戦場へと向い、また、敗戦後の焦土の中を数少ない活字を求めてさまよったと聞く。私は、そこに活字を絶たれた者の限らない読書欲を感じるのである。

さて現在の我々はどうだろうか。現在の我々はこと読書に関する限り、周囲の環境、出版物の量、施設等、その条件は最高に恵まれている、と言っても決して過言ではないだろう。しかしその恵みを生かすことができな

ければ、せっかくの好条件も無に帰してしまう。したがって、要はまず一冊の本を読むことからすべてが始まるのである。

昨今の出版ブームは異常とも言える程で、新刊書がすぐに新刊書でなくなる程の勢いであり、我々はただその大量活字文化の流れの中で翻弄されるだけである。しかもその中身自体「質」より「量」であるので、往々にしてつまらぬ本を読む破目になる。

知識を得るための読書、教養を高めるための読書、心に支えを求めるための読書、そして雑読と読書の形式は様々であるが、良書に出会うことは最高の喜びである。折しも「読書の秋」である。各出版社や書店はこぞってブックフェアその他の催し物を行うであろう。そのような機会が、ひょっとしたら一冊の良書との出会いとなるかもしれない。

レファレンス事例(7)

参 考 係

最近利用者から寄せられた参考質問のうちから、2・3の事例を紹介して、他の利用者の参考に供したい。

〔質問1〕 ある論文の収載誌に S P F F B U と略誌名を使っていたが、この正式誌名と出版地を知りたい。

回答例： 全て大文字なので各単語の頭文字をとった略誌名であろうから、こういう略誌名から正式誌名を調べるツールとして、Periodical Title Abbreviations, 2nd ed. (Gale Research, 1977) がある。これを見ると正式誌名は、Sbornik Praci Filosofické Fakulty Brněnské University, Brno とある。また利用者のその論文を見ると言語学に関する論文で1962年に出版されたことがわかるので、Linguistic Bibliography for the year 1962 (Spectrum, 1964) を見るとこの論文が出てきたが、このツールには略誌名は、S F F B U とあった。

〔質問2〕 大学の教員の資格について、何か公表されている基準のようなものがあるだろうか。

回答例： 文部省の「大学設置基準」の第4章に教員の資格という項があり、13条：教授の資格、14条：助教授の資格、15条：講師の資格、16条：助手の資格として載っている。しかし助教授から教授というように昇任の具体的な基準については出ていない。

〔質問3〕 日本の雑誌で、欧文誌名が Geographical Review of Japan という雑誌の和文誌名を知りたい。

回答例： 日本の雑誌でも最近では学術雑誌については殆んど裏表紙に、誌名、目次、出版団体が欧文で記されているが、正式誌名が和文であるものについての欧文誌名から引く索引等は出版されていないので、欧文誌名から大体の和文誌名を想定して「全国学協会総覧」（日本学術会議、昭51）の分野別の学協会の機関誌を見てゆくと、日本地理学会の機関誌、地理学評論（月刊）であることがわかる。この全国学協会総覧には、学協会とその機関誌の欧文名も出ているので有用である。

〔質問4〕 2～3年前にアメリカにおいてMiller（姓だけしかわからず）という人が、選挙における投票行動についての数量分析を行なった論文を発表しているが、何という雑誌の何巻何号に載っているのか、また正式な論文名を知りたい。

回答例： アメリカにおいて出版されているということがわかっていて、2～3年前ということなので、先ず1978年の Social Sciences Index の累積版で投票行動 (Voting Behavior) の Mathematical Models の項で執筆者 Miller のところを見ると、Graph-theoretical approaches to the theory of voting. N. R. Miller. Am J Pol Sci 21:769-803 N '77 とあった。利用者にこの論文名を示すと恐らくこれだろうということだった。

〔質問5〕 ロンドンにある Institute of Education という機関は、ロンドン大学 (University of London) に所属する機関かどうか知りたい。

回答例： World of Learning, 1978-79によれば、1902年に London County Council as London Day Training College として設立されたが、1930年にロンドン大学の管理の下に移されたとある。

〔質問6〕 アメリカの農務省 (Dept. of Agriculture) が出している統計資料にはどんなものがあるかを知りたい。

回答例： アメリカ政府刊行物の調査ツールとして役立つのが、Schmeckebier & Eastin ; Government publications and their use. 2nd rev. ed. (Brookings Institution, 1969) である。ちょっと古いが、その最後の章に Periodicals の項があって内容ごとに各省庁の出版する Periodicals の紹介が出ている。主なものに Foreign Agriculture (月刊)、Foreign Agricultural Trade of the United States (月刊)、Agricultural Research (月刊) がある。



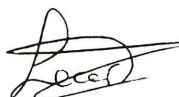
外国図書館シリーズ

— フ ラ ンス —

Université de Caen

Esplanade de la paix,

14032 Caen Cedex FRANCE

 Michelle -

Caen University Library



The Library is situated in the building of Law and Economic Science. On the second floor of the library are located all the reviews and periodicals of all the subjects. On the first floor there are two big rooms where students work. Many books (dictionaries, atlas, law books) on the shelves of these rooms are often very old and big and must be consulted on the premises. You take the book when you want and put it back after use. Thousands of books are in store downstairs where you are not allowed to go.

You can check out three books for two weeks (more for the holidays). You have to consult a card index and write on the card the author, the title, call number, your name, your address, date due and your signature. One card for each book. Your cards are sent by dumb waiter downstairs with cards of other students. You have to wait around fifteen minutes. This is the time that the persons downstairs need to look for books. Then the books are sent by dumb waiter.

During the period examinations it is hard to get the books the teachers advised because everybody wants them. The rooms of the library are often full during the examinations and just before. The library is opened at 9:30 a.m. and closed at 7 p.m. A couple of years ago it was closed at 10 p.m.

Each department has its own library which are smaller and usually for the students of this department. There, you have to take the books from the shelves yourself and go to an office to check them out. These department libraries are more friendly because students know each other and some students work for this library.

Michelle Lecerf

(筆者はカン大学から交換留学生として来学、56年9月より57年5月まで留学生別科学生として本学に在学します。)

☆ ニュース・お知らせ ☆

＜図書館委員会＞

- 56.7.10 1. 大学院資料室について
 56.10.16 1. 昭和56年度私大助成の事後処理について

＜研修・出張＞

- 56年度私大図書館協会総大会・研究会
 56.7.23～25 於：福岡大学
 糸園館長、刀根司書長、
 杉本、今永両課長補佐、品川司書補出席
- 56年度福岡県・佐賀県大学図書館協議会
 第1回福岡地区研究会（当番校：第一薬科大学）
 56.9.22 於：福岡市天神 ガーデンパレス
 杉野、渡辺両司書出席
- 56年度九州地区著作権講習会
 56.10.1～2 於：福岡市天神 都久志会館
 松本、板谷両司書補出席
- 56年度私大図書館協会西地区部会
 九州地区協議会研究会（当番校：第一経済大学）
 56.10.2 於：福岡市薬院 福岡共済会館
 西納、荒川両司書出席

＜人事＞（56.9.21付）

- 藤井俊彦（大学院事務室へ）
 府川洋子（ ” ” ）

＜洋書書名目録の完成＞

かねてより利用者の皆さんから要望されていました洋書の書名目録の作成が、昨年の4月から準備にとりかかり、このほど完成しましたので、洋書を書名から探す場合にはこの書名目録を利用して下さい。配列の基準等は、3階の目録コーナーの洋書書名目録のカードケースの上に置いてありますので参考にして下さい。

＜図書館学生利用実態調査の実施＞

この調査は、本学学生の図書館利用の実態を把握し、適切な学習環境の整備をはかり、図書館活動改善の資料とするためであり、特に学生諸君の図書館に対する意見、希望等もできるだけうけとめ、利用者サービス

の向上につとめるためです。

来年1月中旬に実施の予定ですので、ご協力をお願いします。

＜アジア財団より図書寄贈受く＞

本学のアメリカ研究に対する関心、取り組みが極めて積極的であるとの日米友好協会の評価により、2,500ドルの基金援助の申し出があり、アメリカ研究資料が逐次アジア財団より送付されることになりました。

＜大学院資料室の開室＞

新装成った大学院校舎内の大学院事務室が、去る9月21日に執務を開始しました。この大学院棟に資料室が設置されたので、大学院の基礎的資料を、図書館より長期貸出の形で同室に逐次備えつけます。

告 知 板

○大学祭期間中の開館

大学祭期間中も平常通り9時から21時まで開館しますが、この間1階学習室は閉室します。

○冬期休暇中の開館時間および休館日

12月25日(金)	クリスマス休館
26日(土)	9:00～12:00
28日(月)	年末年始休館
1月5日(火)	
6日(水)	9:00～21:00
7日(木)	

※この間1階学習室は閉室

1月8日より平常通り開館

○冬期休暇長期貸出（下記対象以外は除く）

学部学生、専攻科生

12月15日(火)～1月7日(木) 5冊以内
 大学院生

10月26日(月)～11月16日(月) 20冊以内

いずれも返却期限は1月18日(月)です。

○卒業年次生へ

卒論用に別途3冊（1ヶ月）貸出中

先輩の卒論、閲覧実施中（詳細は受付まで）